

京都府地域創生推進会議 概要

○日 時 令和元年8月8日(木) 午後3時40分～午後5時00分

○場 所 ルビノ京都堀川 3階 アムールの間

○出席者

赤瀬 史 日本労働組合総連合会京都府連合会副事務局長
岡田憲和 京都市副市長
(代理：総合企画局総合政策室 佐藤SDGs・市民協働推進部長)
沖田康彦 京都府商工会連合会会長(代理：高石専務理事)
奥野美奈子 株式会社京都銀行執行役員／公務・地域連携部長
小田一彦 一般社団法人京都府農業会議副会長
澤井安子 京都府女性の船「ステップあげぼの」会長
仲谷善雄 (公財) 大学コンソーシアム京都理事長(代理：桂専務理事)
八田英二 学校法人同志社総長・理事長
原田紀久子 (特非) アントレプレナーシップ開発センター理事長
平林幸子 京都中央信用金庫副会長
藤本明美 (特非) 京都子育てネットワーク理事長
松本紘(座長) 京都大学前総長／国立研究開発法人理化学研究所理事長
宗田好史 京都府立大学副学長・生命環境学部教授
山田聡司 京都学生祭典実行委員会委員長
京都府：稲垣政策企画部長、加藤政策企画部副部長、伏原戦略企画課長ほか

<「京都府地域創生戦略のKPIの全体達成状況」「平成30年度の主な事業の効果検証」「令和元年度の主な事業」について>

○主な意見

- ・地方創生を進めるためには、「規制緩和」という視点も必要。第2期地域創生戦略の策定に当たっては、そういう視点も入れるべき。
- ・京都府だけで地域創生戦略の取組を進めることはできないため、主体となる関係団体にしっかり権限を持たせて一緒にやっていくというスタンスが非常に大切。
- ・京都経済センターが整備されオール京都体制で中小企業を支援する仕組みができたが、実効のある産学公連携の仲介役として力を発揮してほしい。
- ・子育て環境日本一を目指すに当たっては、できるだけ子育て中の当事者の意見を聞いて、これからの施策を進めてほしい。
- ・令和元年度予算にも5つの観点が示されているが、計画や戦略の策定においては、これらがどう関連して、どういう社会を実現していく、どのように幸せを実現していくのかが分かるように、府民に上手く伝える工夫が必要。
- ・産後ケア専門員が充実していて、第1子の子育てが豊かにできると、第3子にもつながる。第3子につながるように「産後ケア」をキーワードに、豊かな子育て地域づくりに

向けて行政と地域が上手く連携してほしい。また、こうした「仕組みづくり」により効果を持続させる工夫をしてほしい。

○総括

- ・本日報告されたKPIについては、部分的には課題が残っていると思うが、総括としては「概ね良好」と評価できる。

<「京都府総合計画（仮称）の中間案」「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」、第2期地域創生戦略の策定スケジュールについて>

○主な意見

- ・小中学生の間に、地域に残り、地域で生計を立てるライフデザインを提示すべき。第2期地域創生戦略においては、「自分で仕事をつくっていける子どもたちを地域で育てる教育活動を応援する」という柱を入れるべき。
- ・地方創生や地域とのコミュニケーション人材、地域にどれだけ貢献するかという面では、高校生は取り残されていると感じる。地方創生のキーポイントが「人材育成」と考えると、小中高大と切れ目なく戦略をつくっておくことが重要。